

この教材見本は、実際の1カ月分の教材よりも回数・ページ数が少ないダイジェスト版です。

※実際の教材の1カ月あたりの学習量は、1回30～60分×4回です。

この教材見本は1カ月分の一部を抜粋して掲載しています。

下記の黒字が今回の掲載回です。

※テキストスタイル、進学クラスの教材見本です。

## 入試特訓 論説文 1

- 1 〔読解〕 文脈・部分的内容 1
- 2 〔読解〕 文脈・部分的内容 2
- 3 〔知識〕 文節・品詞分類
- 4 添削問題

添削問題 解答解説

合格への一手!

入試では初めて見る文章を読み取る力が問われる!



みなさんこんにちは。これからいっしょにがんばりましょう。

受験勉強のスタートを切るにあたって、まずみなさんに知っておいてほしいことがあります。それは、定期テストと入試問題の違いです。

●定期テスト⇨授業で学習した内容について理解しているかどうか問われる

●入試問題 ⇨初めて見る文章を読解し、問題に答えられるかどうか問われる

高校入試では、初めて見る文章を正確に読み取る力、限られた時間の中で正しく問題に答える力が求められるのです。「難しそう……」と思った人もいるかもしれませんが、でも大丈夫! Z会では、入試で出題されるさまざまな文章を読みこなしていくコツをみなさんに伝授していきます。これから一年間、しっかりとついてきてくださいね。  
高校入試に向けて、Z会の国語では、次のことを心にとめて学習していきますように。

★初めから全問正解できなくても大丈夫! それよりも自分のできなかったところを知り、一つひとつ克服していこう。

★知らない言葉が出てきたら、こまめに意味を確認しよう!

論説文の攻略ポイントを確認!

●指示語が指す内容をとらえる ●

◎指示語が指す範囲

原則として、指示語は前に出てきた内容を指す。指示内容を探すときは、指示語を含む文や段落と、同じ話題・キーワードについて述べている箇所に注目しよう。ただし、まれに指示語のあとに指示内容がくることがあるので注意しよう。

◎指示内容のとらえ方

①指示語を含む文を読む(話題やキーワードに注意)。

②前の記述から指示内容を探す。

③見つけた内容を指示語にあてはめて、文意が通るか確認する。

とくに、③の確認作業は必ず行うようにしよう。

●段落を意識しながら読む ●

◎意味段落どうしの関係を理解して、文章全体の展開をつかむ

①各形式段落の内容を読み取り、同じ内容の段落を意味段落としてまとめる。

②各意味段落の冒頭の接続語や指示語に注目し、その意味段落が文章全体でどのような役割をもっているかをつかむ。

各意味段落の役割をつかみ、たとえば「I 話題の提示→II 具体例→III 筆者の意見」などのように、大まかでよいので文章全体がどのような構成になっているかをとらえよう。それによって筆者の主張もとらえやすくなる。

## 入試問題にチャレンジ！

## 今回の実力アップ！ポイント

今回は、問四で指示語が指す内容を答える問題にチャレンジします。指示内容を問うものは、高校入試では文章の種類を問わず非常によく出題されます。今回の問題では、**指示語を含む段落の内容をしっかりととらえる**ことがポイントです。選んだ答えを指示語にあてはめて確認することも忘れないようにしましょう。

許諾の都合により、掲載しておりません。

許諾の都合により、掲載しておりません。

許諾の都合により、掲載しておりません。

許諾の都合により、掲載していません。

許諾の都合により、  
掲載しておりません。

解説

問一 空欄補充の問題は、前後の文脈をおさえることと、選択肢にあげられた語の意味・用法を知っておくことが大切です。

A について。空欄の前では、絵の具のませあわせによって「いろいろ複雑な色もでている」ことが述べられ、空欄のあとでは、「長年月のうちに、顔料が緩慢な化学変化を受けて、色がますます複雑になった点もある」とあります。複雑な色が見られるのは、**絵の具のませあわせ**だけでなく、**化学変化**によるものもあるだろう、と補足して説明しているのです、説明を付け足すことを表す力「もつとも」があてはまります。

B について。「……原始人に、どうしてこういう芸術作品がつくれたか、**B** 不思議である」とあり、ここでの「こういう芸術作品」は、前文の「ニューヨークの展覧会に出しても、大賞をとりそうな絵」を指しています。つまり、すばらしい出来ばえの絵だということ、原

始人にこのような絵が描けたことが非常に不思議である、という文意になります。よって、Bには程度や状態がはなはだしいことを表す「いかにも」があてはまります。

問二 傍線部はラスコウ洞窟の絵について述べたものです。ラスコウ洞窟の絵のどのような点がすばらしいのか、説明しているのは②段落です。この段落からラスコウ洞窟の絵の長所をあげてみましょう。

- いろいろな複雑な色がでている
- 筆致が素朴かつ雄渾
- 形がよく野生動物の姿を写しているばかりでなく、その性格までもみごとに表現している

このような長所があるために、筆者は「とても二万年も昔の原始人類が描いたものとは思われ」ず、「ニューヨークの展覧会に出しても、大賞をとりそうな絵」だと賞賛しているのです。これらの長所の中から、「野生動物の姿だけでなく、その性格まで力強く巧みに描いている」点をおさえたAが正解です。

Iは、原始時代の人々が「絵の具の化学変化で、鮮やかな色が出ること」を「計算」していたわけではないので誤りです。二万年経った現在だからこそ「化学変化」が起きたことがわかったのです。Uは、「複雑な構図で描かれた」が誤りです。そのような記述はありません。Eは、「原始人類には、絵を描くこと自体が難しいこと」が誤りです。①段落のはじめに、原始人類が住んでいた洞窟に、絵が描かれたものがいくつかあったことが述べられています。

問三 傍線部を含む一文は「ほんとうの芸術というものは、こういうものかもしれない」とあります。「こういうもの」とは、①・②段落で述べられてきた「ラスコウの壁画」のような特徴をもった絵画のことです。そして③段落では、「ラスコウの壁画」のような絵がなぜ「ほんとうの芸術」といえるのか、筆者の考えが述べられています。

**原始人類**

- ・ 野生動物がきわめて身近であり、大切なもの
- ・ 野生動物の姿が脳裏に深く焼きつけられていた（＝野生動物の姿をしつかりと記憶していた）

← 自分の頭に残っているイメージを、無心で壁面に残した

＝ 世間の評判を顧慮する（＝気にする）必要もなく、商業価値などにはまったく無縁であった

← このように  
＝ 純粋な喜びと、宗教的な敬虔さで……作品をつくり出した。

＝ そういうラスコウの壁画が、高度の芸術品であっても、ちっともおかしくはない

以上のように、ラスコウの壁画は、身近な野生動物の姿の鮮明な記憶をもとに、世間の評判や商業価値などとは無関係に、純粋な気持ちで描かれたものであり、そのような意味で筆者は「ほんとうの芸術」と述べているのです。よって、説明文の空欄には「商業的な価値」と同列に扱われている「世間の評判」が当てはまります。

問四 「人間の眼」が「瞬間写真に匹敵する能力を発揮する」のはどんな場合かを読み取ります。まず、傍線部の直前の一文を確認してみましょう。

そういう立場にあった彼らは、動物の習性や、運動を、われわれの想像を絶した真剣さで、見つめていたにちがいない

この文にも「そういう立場」と指示語が含まれています。この指示内容を確認するために、さらに前の部分にさかのぼりましょう。⑤段落全体では、ラスコウ洞窟の原始人たちについて、次のように述べられています。

彼らは、どうしても、野生動物を捕らえなければならぬ。それができなかつたら、死ぬよりしかたがない。それは本気などという生やさしいものではなく、絶体絶命の問題である

＝ そういう立場にあった彼らは……

このように、原始人たちにとっては、野生動物を捕らえることが自分の生死にかかわる問題だったので、「そういう立場」は原始人たちのこのような状況を指した言葉です。そして同じように、傍線部の「そういう場合」も、「自分の生死にかかわる場合」を指しています。よって正解はウです。指示語の箇所を選択肢の内容をあてはめてみて、文意がきちんと通じることを確認しておきましょう。

アの「動物の動きを見つめる場合」は、直前の一文だけに注目しており、「そういう立場」が指す内容をふまえていません。イは、⑤段



落の最初のほうの「彼らは、なにも精巧な狩猟道具をもっていたわけではない」に反する内容です。工は、狩猟や自分の生死と関係のない内容なので、誤りです。

読んで 実力アップ!

指示内容を正確にとらえる

指示語は、その指す内容によって、次の二パターンに分けることができます。

- ① 指示語の前の短い内容(語句・一文など)を指す
- ② 指示語の前の広い範囲(段落・それまでの内容全体など)を指す

読解問題などで問われるのは、この二つのパターンのどちらかです(まれに、指示内容があとにある場合もあります)。

このことを念頭におき、指示語の問題では次のことに注意しながら解答を考えていくようにしましょう。

- ◎ 指示語がどこからどこまでの内容を指しているか、範囲を見きわめる
- ◎ 答えの内容に過不足がないようにする

広い範囲を指す場合は、必要に応じて内容を要約します。自分の解答を指示語にあてはめてみて、前後と意味がつながるかどうかが、必ず確認しましょう。

問五 段落の内容を要約する問題です。設問にいくつか条件があります。それらをすべて満たす解答を作成しなくてはなりません。

〈解答にあたっての条件〉

- ① ⑥段落で述べられた「科学の本来の姿」について要約する。
- ② 四十字以上五十字以内で書く。
- ③ 「基礎」「密着」の二語を使う。順序は問わない。
- ④ 書き出しは「本来の姿の科学とは、」とする。
- ⑤ 句読点も一字として数える。
- ⑥ 文は一文でも二文以上でもよい。

このように条件や指定の多い問いでは、条件が書かれたところに線や印を付けて見落としを防ぎましょう。また、条件④のように書き出しが指定されている場合は、先に解答欄に書きこんでおくとよいでしょう。

それでは内容を確認していきます。条件③のように、指定の語句がある場合は、その語句が問題文でどのように使われているかを確認しましょう。これによって解答の手がかりを得ることができます。まず「基礎」は、段落の冒頭で「科学の基礎は……」と述べられていることから、解答でも「科学の基礎」について説明すればよいことがわかります。また「密着」は、「彼らの芸術も、科学も、ともに生活に密着したものであった」とあることから、〈科学が生活に密着している〉ことを述べればよいとわかります。

次に、この問いで求められているのは「科学の本来の姿」について要約することですから、この点について述べている箇所を探します。すると、終わりから二つ目の文に、次のようにあります。

しかし科学の本来の姿は、**「そういうもの」**ではない。

「そういうもの」が指す内容を直前から探すと、

今日の科学は、あまりにも分化し、かつ商業化している。……科学は、一般の人々には、とうてい手のとどかない、はるか彼方のもののように見える。

とあるように、筆者は今日の科学のありようを「本来の姿」ではないと考えていることがわかります。ここで段落の最初に戻りましょう。「ラスコウの原始人たちは、非常に優れた科学者の素質をもっていた」とありますね。つまり、「科学の本来の姿」は、今日の科学のありようではなく、「ラスコウの原始人たち」のあり方に見ることができるときののです。

⑥段落にあげられた、ラスコウの原始人たちのあり方をとり出してみましよう。

- ・科学の基礎は、**自然の精確な観察と、その把握**とにある。
- ・彼らの芸術も、科学も、ともに**生活に密着した**ものであった。
- ・**生活にほんとうに役立つ**ものは、この本来の姿の科学である。

これらの内容をまとめて解答とします。

入試にむけて記述力アップ！  
○つけのポイント

① 「本来の姿の科学」が、「自然の精確な観察と把握を基礎としている」ということが書けているか。

本来の姿の科学とは、  
① 自然の精確な観察とその把握を基礎としていて、  
② 生活に密着し、役立つものである。

② 「本来の姿の科学」が、「生活に密着し、役に立つ」ということが書けているか。

※文末の形は問わない。

※四十字以上五十字以内で書けていること。

※書き出しが「本来の姿の科学とは、」となっていること。

※「基礎」「密着」の二語を使っていること。

「こんな解答は△」

△ 本来の姿の科学とは、今日の科学のように分化せず、商業化しておらず、一般の人の手が届くもの。(45字)

\* 「今日の科学」のありようをあげてそれを打ち消すのではなく、「本来の姿の科学」がどのようなものか、直接述べましょう。また、「基礎」「密着」の二語を必ず解答中で使わなければなりません。

問六 それぞれの選択肢と問題文の内容をきちんと照らし合わせましょう。

アは、「絵を描く精巧な道具があった」が誤りです。②段落に絵の具について「岩石を粉にしたもの」とありますが、「精巧な道具」という記述はありませんね。

イは、「野生動物」を「敵」としている点が誤りです。③段落に「野生動物は、きわめて身近で、かつ大切なものであった」とあります。

ウは、①段落に「これ（＝アルタミラ洞窟の壁画）以上の壁画が見つかった。ラスコウ洞窟の壁画が、それである」とあることに「反しますから、誤りです。

エは、②・③段落で筆者が「ラスコウの壁画」を「ほんとうの芸術」「高度の芸術品」などと高く評価していることと、⑥段落で「ラスコウの原始人たちは、非常に優れた科学者の素質をもっていた」と述べていることに合致しており、これが正解です。

### まとめ

指示語の問題は、答えを代入して意味が通るか確かめるべし！

段落の役割をとらえて文章全体の構成をつかむべし！

設問の条件や指定語は必ず確認すべし！

記述問題を得意にする！

## 記述問題 得点力アップの第一歩とは？

設問文の内容や条件をよく確かめて失点を防ごう。



今回の問五では、段落の内容を要約する記述問題に挑戦しましたね。「難しかった」という人も多かったのではないのでしょうか。

記述問題では、まず、**何について答えるのか**を確認することが大切です。あたりまえのようですが、このことを意識しているかどうかで、得点力が大きく違ってきます。**問いが求めていることをしっかりと頭に入れ、問題文から関係のある内容を探す**ことが、得点への第一歩です。

このあたりを見落としがちなので要注意！

例 筆者は⑥段落で、科学の本来の姿について述べている。それを要約して、四十字以上五十字以内で書きなさい。

←この問いでは…  
どこから  
何について  
どのように書くのか

⑥段落で述べられた「科学の本来の姿」について、四十字以上五十字以内で要約する。

またこの問いでは、「基礎」「密着」という指定の語句を必ず使うことや、書き出しの形を「本来の科学の姿とは、」とすることのほか、解答欄のマス目の使い方についても指示がありました。

**設問条件は、最低限守らなければならない解答にあたってのルールです。**守らなかった場合は、減点されたり、その問いが0点になってしまうこともあります。**条件が示されているところに――や○をつけるなど、見落としをしない工夫をして失点を防ぎましょう。**

● MEMO ●

## 問題

一

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(50点)

許諾の都合により、掲載しておりません。

許諾の都合により、掲載しておりません。

許諾の都合により、掲載していません。

許諾の都合により、掲載していません。

問一 傍線(a)～(d)の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直して書きなさい。(各2点)

問二 空欄A～Cにあてはまる語を次の中からそれぞれ選び、記号を書きなさい(同一記号の反復使用不可)。(各2点)

- ア さて                   イ なるほど                   ウ ところが  
 エ つまり                   オ たとえば

問三 傍線(1)とありますが、情報社会でありながら、このように言える理由を五十字以内で説明しなさい。(10点)

問四 傍線(2)とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(5点)

- ア 共同体の中で不穏な空気を生じさせないように、不安要素は広く知れ渡らないように隠しておくくみ。  
 イ 知りたいと思うことは常に誰かが教えてくれるため、一般の人は情報不足を感じずにいられるしくみ。  
 ウ 必要な情報は生活する範囲のものに限られており、場合に応じてその真偽も自分で確かめることができるしくみ。  
 エ 利害関係者によって、操作されたものか、一部しか公開されなかった情報が提供されるしくみ。

問五 傍線(3)について、次の(i)(ii)に答えなさい。

(i) 米国のほうが早くから情報公開の習慣がある理由を筆者はどのように考えていますか。その説明となるように、次の空欄にあてはまる内容を文中から三十字で抜き出して書きなさい。(5点)

□が建国当時から理想として存在するから。

(ii) 米国に比べて日本で情報公開が進んでいない理由を筆者はどのように考えていますか。「米国の政治の理想」との対比をふまえて、四十字以内で説明しなさい。(9点)

**実力アップ! 問題**

問六 筆者の考えと合致するものを次の中から一つ選び、記号を書きなさい。(7点)

- ア 新聞が自由に意見を書けなければ、有権者が政府を批判的に検討する材料が充分にあるとは言えず、民主主義が脅かされる。  
 イ 日本においても情報公開が米国並みに行われれば、必ず社会に大きな利益を与えることになる。  
 ウ 有権者は、選挙に関して有効かつ役に立つ情報を充分に得られるように努力しているが、日本の秘密主義に阻まれている。  
 エ 一般の人が情報過多によって何を信じてよいかわからなくなっていることが、情報不足の真の要因である。



許諾の都合により、  
掲載しておりません。

**解説**

**問一** (b)の「操作」は書き取りでもよく出題されます。(c)の「頻繁」は「頻」も「繁」も(回数が多い)という意味で用いられる漢字です。画数の多い字なので、細部まで確認しておきましょう。

**問二** A空欄Aまでの内容を簡単にまとめると、情報社会の中で、「社会全体」としては「情報過多」といえるのだが、一般人の人にとっては、実は「情報は不足している」のだ、ということが述べられています。この内容を受けて、空欄A以降では、飛行機事故などの具体的な例を説明しているので、具体的な事例を導く「たとえば」が入ります。

B空欄Bの前の段落では、情報が村の中だけで完結していたときのことを述べていますが、後では「桁違いに大きな社会」での情報のありように話が変わりますので、逆接の関係を表す「ところが」が適切

です。

**C** 「中国人」「インド人」との相違という観点から、ウの「ところが」を入れたくなりますが、ここは「中国人」「インド人」「日本人」という三つの要素を並べて説明している文脈と考えるのが自然です。「同一記号の反復使用不可」という条件にも注意しましょう。空欄Cを含む段落は、前段落からの流れ、すなわち「中国とインドと日本、つまり儒教的文化と仏教的文化と神道的文化との比較」の中にあります。ですから次の話題に移るときに用いる「さて」を選びましょう。

**問三** 「情報社会」でありながら、「情報は不足している」と言うのはなぜなのか、その理由を考えます。

傍線部を含む段落では、「社会全体」と「一般人」を比べて説明しているところがポイントです。「社会全体」では「たくさんの情報が蓄積されている」……ということは、「一般人」はその情報を手に入れることができないのではないかと推測することができます。

このことは、続く段落の「どこかで事件が起こった、飛行機が落ちたとか」の具体例で、「一般人が知ることのできる情報は原則として少ない」と述べていることからわかります。

**問四** まず言葉の意味を確認しましょう。「事実」とは、(実際に起きている)ということ、ここでは「村に住んでいる人」としての「情報」が「自分の目で見」ることができ(る)「実際の出来事」であった、ということ、また、「自己充足」とは(自分で自分を満たす・自己完結する)ということですから、「情報」について、その真偽や詳細を自分で「行つてたしかめてみることもできる」ということを指しています。

これらをふまえると、村に住む人が必要とした情報とは、身の回りで現実として生じているものであり、その内容を自分で確認することができる、ということになります。この点をおさえているのはウであり、アとエは情報を隠しておく、という方向で説明されているので、「村」で取得できる「情報」のありように合いません。イは、「村」での情報は「常に誰かが教えてくれる」ものではなく、「自分の目で」確かめられるようなものである、ということに気づければ不適切な選択肢であるとわかるでしょう。

問五 (i)「米国のほうが早くから情報公開の習慣がある理由」は、「中国人」「インド人」「日本人」の「くせ」について説明した後に続いて述べられています。

許諾の都合により、掲載しておりません。

ここで述べられていることを整理すると、

米国で情報公開が進んでいる理由

=

共和国の理想

|| 人民のための政治、人民がつくった政府、

人民の自治だという考え

ということがわかります。

(ii) 今度は「米国に比べて日本で情報公開が進んでいない理由」について考えます。「米国の政治の理想」との対比をふまえて」という指示がありますので、(i)で答えたこともふまえて、両者を比較しながら考えてみましょう。

米国の政治の理想の根幹は、あくまで政治は「人民」のものであるということでした。では日本の政治ではどうでしょうか。これが日本で情報公開が進まない理由に関わっていきそうです。

許諾の都合により、掲載しておりません。

ここで「何でもかんでも公開することはない」という考え方が生まれた理由として、「お上が人民を支配する」ことが指摘されています。

「お上」とは今でいえば「政府」に当たるでしょうか。政治は「人民」が行うもの || 「自治」と考えている米国に対し、政治は「お上」 || 「政府」が行うものと日本では考えているわけです。このような姿勢であれば、重要な情報は「政府」に属する一部の人だけが知っていればよい、という理屈になり、情報公開が進まなくなってしまうのですね。

解答においては、「米国の政治の理想」との違いが明確になるように、政治の担い手が「人民」ではなく「お上」 || 「政府」であることを明確にしましょう。「人民が政治を行うわけではない」程度では、(i)で答えた、米国に関する説明を裏返しただけになってしまうので不十分です。

## 実力アップ！問題

問六 「筆者の考えと合致するもの」を選びます。選択肢をひと通り読んでみて、合っているように思えるものがいくつかある場合でも、それが文章の内容から確実に読み取れない、つまり「そうともいえるかもしれない」程度のこともあるので、文章に書いてあることと選択肢で述べていることを慎重に照合することが求められます。選択肢を一つ一つ見ていきましょう。

ア最終段落では「民主主義の根幹は政府を批判できるということ」であると述べられています。この前提としては、米国の憲法で保障されているような、「情報を獲得して」「自由に」「大衆に伝える」「プレス自由」がなくてはなりません。このような筆者の考えをアは満たしていませんね。

イ米国と日本の情報公開のありようの違いについて述べる文脈から、「日本においても情報公開が米国並みに行われ」ることを筆者が望んでいることはつかめますが、その実現が「必ず社会に大きな利益を与えることになる」とまでは述べていません。漠然とした社会の「利益」のためではなく、「民主主義」の支柱として必要であると考えているのです。

ウ文章中で「ある程度までは、有権者自身が情報を獲得するために十分な努力をしないから情報が不足しているという面もあると思いませんけれど」と述べられているので、選択肢の「有権者は、選挙に関して有効かつ役に立つ情報を十分に得られるように努力している」という説明は筆者の考えに合致しません。

エ「情報不足の真の要因」は、この選択肢で言うような「一般の人が情報過多によって何を信じてよいかわからなくなっていること」ではありません。「一般の人」はむしろ「情報は不足している」のです。

この根本的な「要因」は、「大事なことは隠されていて、わからない」「日本は秘密主義」というところにあることを読み取りましょう。